

淡江大學 102 學年度日間部轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

考試日期：7月24日(星期三) 第4節

本試題共 7 大題， 2-1 頁

本試題雙面印刷

* 依序作答，題號標示清楚、不用抄題。

一、閱讀下文，a 選出正確答案後，b 將該「諺語」譯成中文。(2×5、共10分)

- 1、相手が非常に優れているので、それと比べることができないほど劣っている。
a：「(?)にも及ばない。」(①肩、②胸、③腰、④膝元、⑤足元)
b：(中譯) ⇨
- 2、ちょっと油断をしたために、僅かなことから大変なことが起こることの譬え。
a：「蟻の穴から(?)も崩れる。」(①山、②ダム、③堤、④建物、⑤壁)
b：(中譯) ⇨
- 3、下手な癖に、そのことが大変好きであること。
a：「下手の(?)。」(①大好き、②縦好き、③横好き、④好き嫌い、⑤超好き)
b：(中譯) ⇨
- 4、昔身につけた技。また、昔鍛えて、今でも自信のある腕前。
a：「昔とった(?)。」(①金柄、②杵柄、③人柄、④間柄、⑤木柄)
b：(中譯) ⇨
- 5、つかえたりしないで、すらすらと上手に話すことの譬え。
a：「立て板に(?)。」(①油、②酒、③包丁、④水、⑤滑り)
b：(中譯) ⇨

二、將下列中文譯成日文的「諺語」(用意義解釋且正確者，至多給一半得分。2×5、共10分)

- 1、自作自受。(日諺) ⇨
- 2、忍無可忍。(日諺) ⇨
- 3、銘記於心。(日諺) ⇨
- 4、無風不起浪。(日諺) ⇨
- 5、早起的鳥兒有蟲吃。(日諺) ⇨

三、將下列外來語譯成中文。(1×10、共10分)

- 1、ストレス：()。
- 2、スマート・ホン(フォン)：()。
- 3、ユーロ：()。
- 4、グローバリゼーション：()。
- 5、マルチ・メディア：()。
- 6、コミュニケーション：()。
- 7、ハイ・テクノロジー：()。
- 8、ネイティブ・スピーカー：()。
- 9、アイデンティティー：()。
- 10、クオリティー・オブ・ライフ：()。

四、將下列中文語意譯成日文「單一語彙」並標音(2×5、共10分)

例：心黒 ⇨ (腹黒) はらぐろ

- 1、快樂(輕鬆)學習：()。
- 2、泡沫經濟崩解：()。
- 3、招生不足：()。
- 4、洩憤：()。
- 5、安倍經濟學：()。

86-2

淡江大學 102 學年度日間部轉學生招生考試試題

系別：日本語文學系三年級

科目：日語翻譯

考試日期：7月24日(星期三) 第4節

本試題共 7 大題， 2-7 頁

五、將下列日文句子譯成中文 (3×5、共15分)

- 1、彼はたとえどんなに苦しかろうと、目的を達成するまで絶対諦めない。
- 2、夕食の後、私は散歩しがてら、タバコを買いに行った。
- 3、教育を間違えると、その子の持っている才能を潰しかねない。
- 4、彼は5年も日本にいただけあって、日本語が上手なのは当然だ。
- 5、医者は目の前の患者を、もてる最大の技術を駆使して救おうという使命感があってしかるべきである。

六、將下列中文譯成日文 (3×5、共15分)

- 1、(店員の敬語) 對不起，我是否可以將空盤子收走？
- 2、(機内廣播的敬語) 本飛機即將降落成田機場，煩請再次確認安全帶有沒有繫好。
- 3、因經濟不景氣，失業問題愈來愈嚴重。
- 4、不可以國家安全的名義，侵害個人的隱私。
- 5、教育的目的在於培養知性與實用兼具的人材。

七、將下列日文文章譯成中文 (共30分)

- 1、翻譯の基準を総合すると、「正確に」と「分かりやすく」の二点にまとめることができよう。言うまでもなく、「正確に」とは原作の内容を忠実に表現することで、そのためには、原作の組み立て通り機械的に逐語訳するのではなく、原作を全体的に把握してその内容と風格を忠実に訳出しなければならない。また、「分かりやすく」とは原作の内容を正確に表現すると同時に、分かりやすい訳文にすることだが、その訳文は少なくとも文法・修辭およびロジックの面で誤りや不具合があってはならないし、また表現上の慣習に合致することも必要である。(出典：遠藤紹徳『中←→翻訳表現文法』。10分)
- 2、「学びからの逃走」は、東大教育学部の佐藤学さんが言われ始めた言葉である。九〇年代以降の劇的な学力低下の原因を探ってゆく過程で、佐藤さんはこの学力低下が子どもたちの怠惰や教師の教育技術の低下のせいではなく、むしろ子どもたちが積極的に学びから逃走し始めていることに起因することに気づいた。エーリヒ・フロムの『自由からの逃走』は、長い歴史的苦闘の成果としてようやく獲得された市民的自由を二十世紀の先進国の市民たちが捨て値で叩き売って独裁政権や機械化に屈服する倒錯を分析した心理学の古典だが、「学びからの逃走」は、先人の民主化と人権拡大の営々たる努力の歴史的成果としてようやく獲得された「教育を受ける権利」を、まるで無価値なもののように放棄している現代の子どもたちのありようを示す言葉である。彼らはこの「逃走」のうちに「教育される義務」から逃れる喜びと達成感を覚えているように見える。この倒錯はなぜ生じたのか。(出典：内田樹『下流志向』。20分)